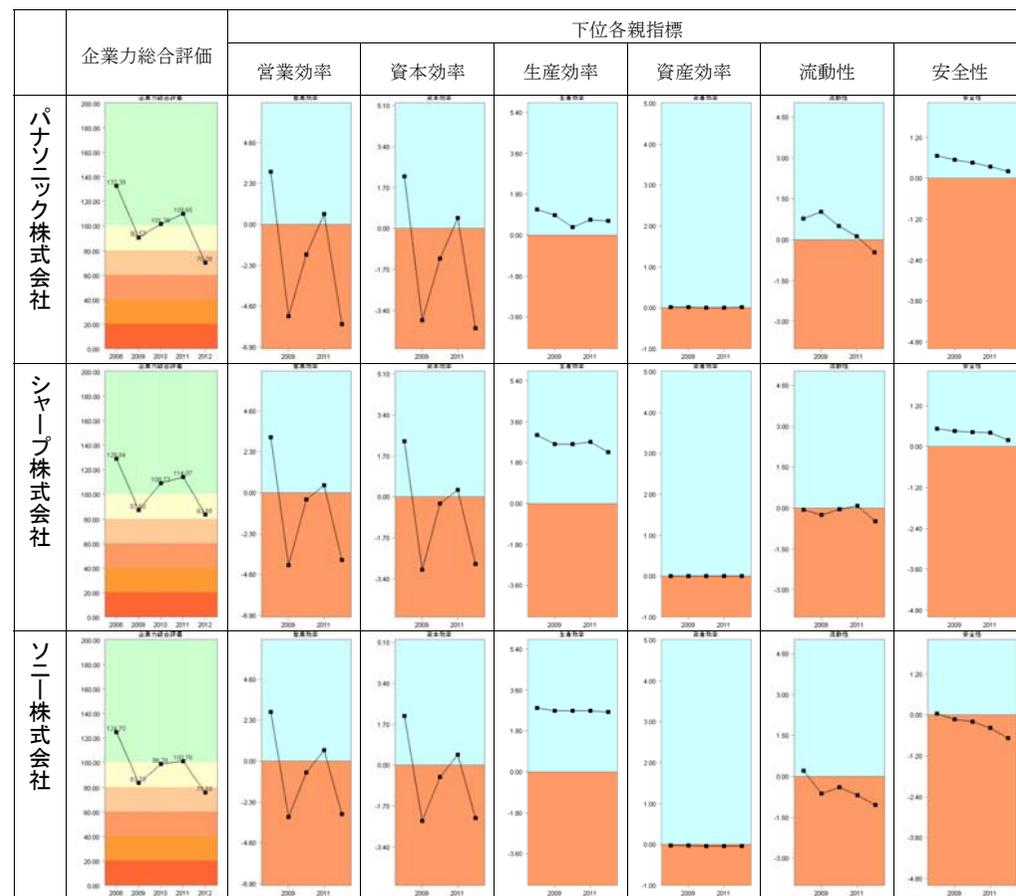
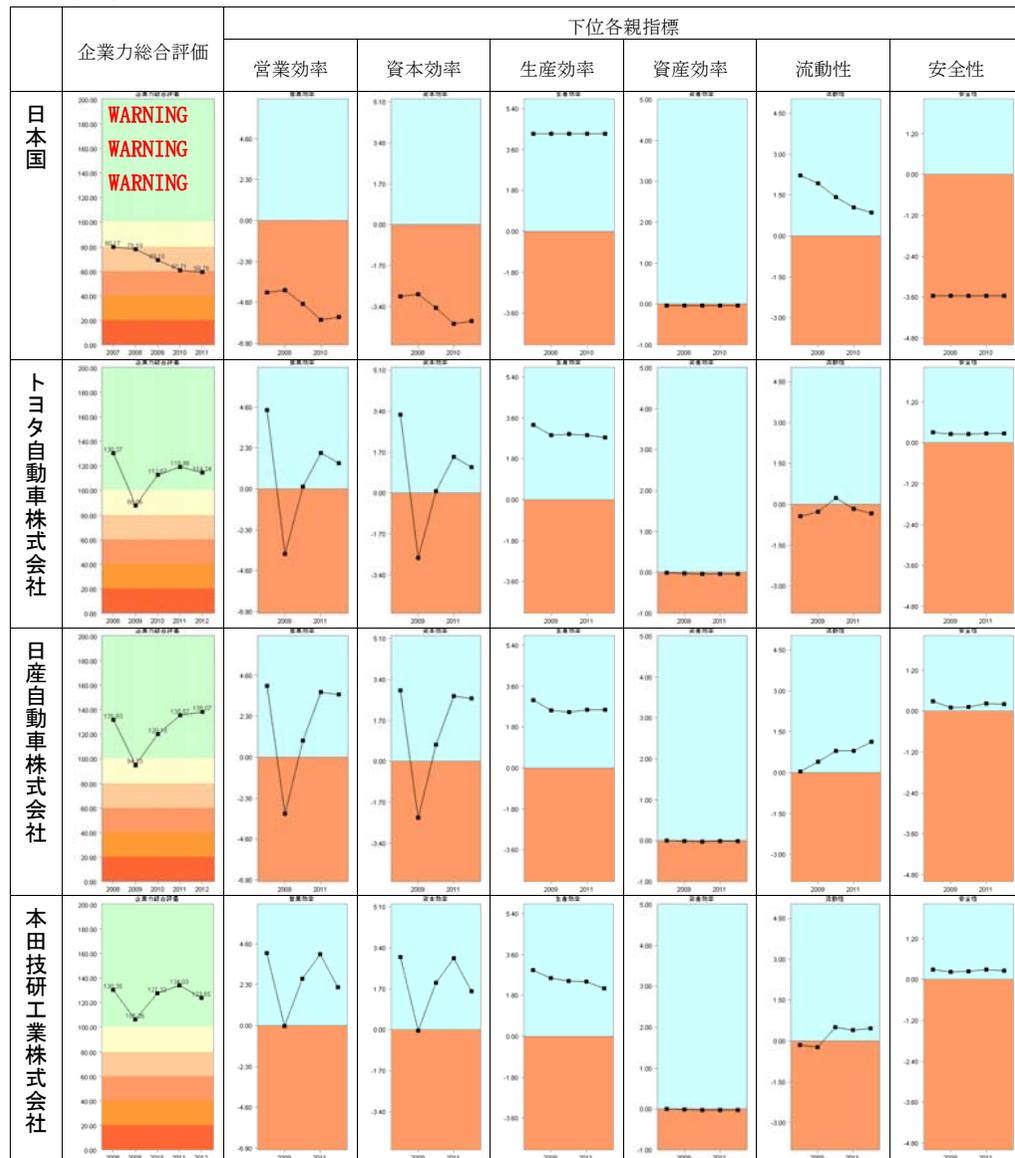


今回は日本国と、基幹産業である自動車産業、家電産業を総覧してみました。
日本国は 2011 年 3 月期までの分析です。(他社は 2012 年 3 月期までですので 1 年ずらして見て
ください。)



日本国の総合評価は年々下がり続けて、60ポイント以下の破綻懸念領域に入ってしまった。しかも WARNING が3つもついています。日本国は「定量的」には破綻懸念状態であっても、そうならないような「定性的」な要因が存在し、破綻しない状態を維持しているのでしょうか。トヨタからソニーまでの営業効率を見ると、いずれもリーマンショックで大きく下落しました。自動車産業はすぐにV字回復しましたが、リーマンショック前の安定した状態には戻っていません。家電産業は赤信号領域から抜け出すのに2期かかり、2012年に再び下落してしまいました。3社ともそっくりです。

まとめ

いずれも厳しい状況です。背景には、円高等々さまざまな要因があります。もし(株)日本国の社長だったら、何から手をつけますか？